



100年企業社員の わが社の **ひみつ**

社員の方の日常からわかる、
100年企業の魅力。



日本の経済発展を支えた「若松港築港関連施設群」が土木遺産に認定。

- #北九州市では3件目
- #6つの土木遺産
- #散策コースで見学



お昼休みは会社周辺を約40分散策。恵比須神社参拝からスタート!

- #若松南海岸
- #若戸渡船
- #生活習慣病予防に散歩



創立100周年記念に誕生した愛されキャラかものはしの「わっくん」。

- #わっくん #今年31歳
- #LINEスタンプ
- #くちばしは情報センサー



若松みなと祭りの「カラオケのど自慢企業対抗戦」では盛りあげ隊!

- #優勝は目指さない
- #衣装が決め手
- #特別賞



一人一人のスキルアップのため、教育研修や資格取得奨励金も充実。

- #新入社員研修
- #リーダー研修
- #奨励金対象資格は30種!



浜町寮の夕食。前日までの予約で寮入居者以外の従業員も食べられます。

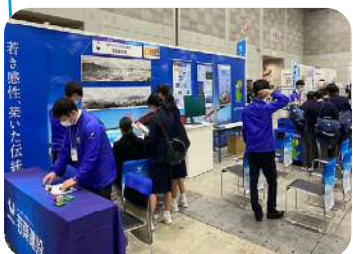
- #500円とかありえない
- #味◎栄養バランス◎

先代から受け継いだ
モノ、ココロ



「内外一致 同心協力せし人々の働きが事業を成功に導いた」— 石野寛平・初代社長の言葉。官や民、立場の違うさまざまな人々が、同じ目的に向かって心をつなぐ力を出し合う大切さを企業の柱に掲げてきました。

採用の取り組み、
求める人材



地元の中高校生に向けた「北九州ゆめみらいワーク2021」にも出展。インターシップや女性の活躍できる場づくりにも積極的。人の話をよく聞き、情報を集め、まごころ尽くせる人材を求め!

ホームページ



YouTube



- 若築建設株式会社 本店:〒808-0024 北九州市若松区浜町1丁目4-7 TEL.093-761-1331
- 創業:1890(明治23)年5月23日 ■ 従業員:766名(2022年1月1日現在)
- 東京本社・東北支店・千葉支店・東京支店・横浜支店・北陸支店・名古屋支店・大阪支店・中国支店・四国支店・九州支店・福岡支店・
- 海外事業所(インドネシア・スリランカ・ベトナム・モルディブ)・わかちく史料館
- 事業概要: 国内・国外建設工事、海洋開発、地域・都市開発、環境整備・保全およびその他建設に関する事業、建設コンサルティング、マネジメント事業、不動産事業
- (ホームページ) <https://www.wakachiku.co.jp>
- (YouTube) <https://www.youtube.com/channel/UCYzUhZxsMQprLQlnSX19M1Q>



発行/若松ブライド・プラスワン推進協議会(北九州市 若松区役所 総務企画課内) TEL.093-771-3559



この「若松レガシー」はポートレース若松の収益金の一部を活用して作成しています



JESCO北九州事業所は当事業に協賛します

令和4年3月発行

100↑



わかちく
若松レガシー

2022 R4 03

若築建設株式会社

石炭の積出港として日本の近代化を支えた若松の誇り、100年企業を紹介するシリーズです。



石野寛平初代社長

渡沢栄一さん



130年を超えて走る 「若築建設株式会社」の ひみつを探ってみた。

地域産業の発展を支えるための創業

はじめは、水深の浅い洞海湾に大型船が入る港を築くという一大事業でした。当時、筑豊炭田からは、生活や産業に欠かせない良質な石炭が豊富に採れていましたが、課題となったのが輸送。「地域産業の発展のためにもこれを解決しなければ」と地元有志が1890(明治23)年に創業したのが「若松築港会社」です。工事費用は港銭(船の通行料)でまかない、民間力で開発と運営を担うという「PFI事業」の先がけとなりました。初代社長の石野寛平さんは、渡沢栄一さんと三菱の岩崎弥之助さんから中央資本の支援を受けながら、石炭積出港としての洞海湾開発を進めます。その甲斐あって、日本の近代化を牽引してきた官営八幡製鐵所の誘致につながり、北九州工業地帯の発展の礎にもなりました。

時代のニーズに合わせて事業を拡大

1938(昭和13)年には、港銭の廃止に伴い港湾工事請負事業をスタート。さらに戦後の不況を逆手に東京へと進出。東京湾周辺の大規模工事への参入を果たします。その後は臨海工業地帯の造成にも参画し、業容を急拡大、全国展開していきました。1965

日本の産業発展の礎となる、 若松港を民間の手で開発!

(昭和40)年には現在の「若築建設株式会社」に社名変更。道路工事をはじめとする陸上土木工事や、工場、商業施設などの建築部門にも本格的に参入し、総合建設業者へと発展しました。

SDGsを視野に若築ブランドを再生

21世紀を目前に、バブル経済の崩壊やリーマンショック、建設不況などさまざまな危機を乗り越えてきた若築建設株式会社。東日本大震災以降は、その使命を果たすべく、震災復旧関連工事にも力を注ぎました。建設業は、防災や減災、技術の発展・継承、再生可能エネルギーなど、SDGsの17のゴールとも深く関わりがあるとして、新たな若築ブランドの構築はすでにはじまっています。いつの時代も、社会の発展や人々の命を守る安全な暮らしの実現に貢献することを目指して一。

主な事業実績

- 【海洋土木】羽田空港D滑走路建設外工事
- 【陸上土木】東九州自動車道清武工事、九州新幹線嬉野温泉駅高架橋他工事
- 【建設】新鶴丸ビル建設工事
- 【海外】スエズ浚渫工事



社長の休日



休日の海釣りで大物ゲット！
小型船舶の免許も持っている
ので船で海に出るのが好き。若
い頃は漁師になりたかったかも？！

[インタビュー]

社長さんに聞いてみた。

若築建設株式会社 代表取締役社長 **烏田 克彦**さん

「このまちは我々の生まれ故郷だと思ってます」と気さくな笑顔で語る烏田社長。
お気に入りのスポットは若戸大橋。社内では若手との対話も大切にしているそうです。

—130年続いた原動力は何でしょうか？

一つは、ものづくりで栄えた街ならではのDNA。ものづくりの街の記憶と、そこで培われてきた技術力や熱意、誠実さが原点にあると思います。若築建設のものづくりの土台にあるのは、国民の生命と資産を守るという使命。皆さんが安心して暮らしていくために、必要なものを整備してつくる仕事を通して、社会に貢献することを目指しています。

は、部下に成功体験をさせること。また、女性社員を含めみんなが働きやすい環境づくりに努め、社員が年代や経験に合わせて自分をスキルアップできる「はぐくみ」という教育プログラムにも力を入れています。

—若築建設ならではの強みや魅力は？

私は入社して40年弱。19代目の社長になりますが、一貫して社員をととても大切にする、自由な風土を持った会社だと思います。132年目に入り「若き感性 築いた伝統」というメッセージを打ち出しました。伝統を大切にしながらも、変革期に必要なのは若い人たちの発想です。若手社員がどんどん自分の意見を言ってくれるような環境をつくれれば、もっとおもしろい会社になると期待しています。

—新たな課題への対応について

コロナ禍では、リモート会議などWEBの重要性や可能性にも気づかされました。これから多様化していく建設業の課題に対応するため、「若築DX(デジタルトランスフォーメーション)」戦略も作りました。働き方改革やESG経営、生産性の向上と省力化のためのICT活用なども進めたいと思っています。

—人材育成のために大切にしていることは？

仕事で成功事例をつくるのが、社員のモチベーションを高めると思います。管理職の役割

—140年、150年に向けた展望について

吉田松陰先生の「飛耳長目(ひじちょうもく)」という言葉にあるように、これからの時代、社員全員がいろんな情報を集めて、仕事や社会の課題を見つけることが大切です。誰一人取り残さない社会のあり方を目指すSDGsにもしっかり取り組み、140年、150年と魅力ある会社として継続していくことを目指して進化し続けたいと思います。

若築建設 130年の軌跡

時代	年	出来事
明治	23 (1890)	5月23日「若松築港会社」創業
	24 (1891)	筑豊興業鉄道(若松-直方)開通
	26 (1893)	「若松築港株式会社」に社名変更
	34 (1901)	官営八幡製鐵所操業
大正	37 (1904)	若松港が特別輸出港に指定
	2 (1913)	国内最大の石炭積出港に
	10 (1921)	若松港が第二種重要港湾に指定
	13 (1938)	運営を福岡県に移管。港湾工事方面に進出
昭和	31 (1956)	東京に進出、東京湾周辺大型工事に参入、臨海工業地帯など全国展開
	36 (1961)	東京証券取引所第二部に上場

時代	年	出来事
昭和	37 (1962)	東京証券取引所第一部に上場
	40 (1965)	「若築建設株式会社」に社名変更。総合建設業へと展開
	46 (1971)	陸上土木工事に参入
	51 (1976)	海外進出。スエズ浚渫工事着工
平成	51 (1976)	福岡市地下鉄工事着工
	9 (1997)	若松本店完成、わかちく史料館開設、ISO9001認証取得
	17 (2005)	羽田空港D滑走路建設外工事着工
	29 (2017)	わかちく奨学金の発足
令和	元 (2019)	第4回けんせつ小町活躍推進表彰「特別賞」受賞
	2 (2020)	創業130周年

若松のまちや人の関わり



「わかちく史料館」や若松区の防犯灯LED化で貢献。

歴史を今に伝える「わかちく史料館」。

入館無料 開館時間 10:00~16:00
休館日 月・日祝日、年末年始

若松とともに歩んできた若築建設の軌跡をたどりながら、洞海湾の開発事業を中心とした、若松の歴史や石炭の集散に携わった人々の暮らしに触れることができる「わかちく史料館」。往時を伝える貴重な資料が多数展示され、写真、映像、模型をはじめとした豊富なコンテンツで大人から子どもまで無料で楽しく学べる施設です。

まちの防犯灯のLED化を継続支援。

創業の地である若松の安全と安心に少しでも貢献しようと、2009年度から毎年約100万円相当の防犯灯具などを寄付してきた若築建設。13年来の継続した支援のおかげで、2022年1月には、若松区にある防犯灯のうち、市設置分がすべてLED化されました。



若築建設 x SDGs

ESG経営に関する13の重要課題を抽出。

「北九州SDGs登録制度」の登録事業者でもある若築建設。建設業は多岐にわたり、SDGsとの関わりも深いことから、E(環境)S(社会)G(ガバナンス)経営に沿って優先的に取り組む13の重要課題を抽出。「自社経営にとっての重要度」と「社会にとっての重要度」を軸とする2次元マトリックス図に落とし込み、優先順位を明確にしなが課題解決に向けて取り組んでいます。

